

分科会開催報告書

報告日 令和2年 1月 30日(木)	報告者 小幡友子
分科会名 浮雲俳句会	開催テーマ 136回浮雲俳句会
開催日時 令和2年 1月 26日(日) 午前9時30分～午前11時30分	開催場所 能見台地区センター和室A・B
参加人数 “わ”の会会員 男11名 女6名	合計17名 欠席者0名

実施内容

第136回例会は、兼題①宗谷岬②時候(晩冬)。他に当季雑詠2句。計4句。句会は、大川一馬会員による添削披露及び、西村あきえ会員による選句の披講の後、北野主宰から、天・地・人賞と、特選5句、佳作8句の発表と夫々の句についての論評があった。

天賞句	忘れしは屹度あそこや春隣	國 眼
地賞句	春を待つ浄土石組みしづかなり	あきえ
人賞句	寒ゆるむ雨の地藏の頬ゆるむ	勇 平
特選句	冴ゆる夜か細き声の電話受く	とも女
	こもれびや吾子歩き初め春隣	春 駒
	この谷津に四十余度の除夜の鐘	一 馬
	透きとほる夜風高みに冬銀河	和 女
	待つ春や難民の聴く駅ピアノ	十 九

会員高点句

8点句	底冷えに「あ・うん」と仁王踏んばれり	二 祥
6点句	大寒や酒場のグラスが「キン」と哭く	三 洋
6点句	寒禽の高鳴きよぎる旅の朝	とも女

次回の予定

令和2年2月23日(日) 午前9時30分～午前11時30分

「第137回例会」は、能見台地区センター多目的室—A—。

第137回例会は、兼題①越前岬②天文(初春)他に当季雑詠2句。合計4句。披講深沢勝美会員。